

河川11 重信川改修工事(愛媛県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
愛媛58	重信町誌編纂委員会編「重信町誌」(重信町、1988年)、61-62頁	<p>戦後の治水 (中略) 重信川流域住民は、古来から豪雨ごとに不安と恐怖のなかで生活してきたが、昭和二〇年以降、近代的な土木技術による築堤・砂防・床固工事の施行によって、水害の恐怖はなくなり、今では昔語りになりつつある。(中略) 一方、松山平野に延々と続いていた重信川堤防の松並木は近来しだいに消失して、さまざまな伝説やロマンを生んだ堤防の風致も変容した。しかし、昭和二〇年以降の治水事業は、重信川を荒廃河川から救った。かつて不安と恐怖の関係ではなく、重信町民にとって母なる川として人々の心にうるおいと安らぎを与える川に変容したのである。</p>
愛媛59	重信町誌編纂委員会編「重信町誌」(重信町、1975年)、52頁	<p>戦後の治水 (中略) 重信川流域住民は、古来から豪雨ごとに不安と恐怖のなかで生活してきたが、昭和二〇年以降、近代的な土木技術による築堤・砂防・床固工事の施行によって、水害の恐怖はなくなり、今では昔語りになりつつある。一方、松山平野に延々と続いていた重信川堤防の松並木は近来しだいに消失して、さまざまな伝説やロマンを生んだ堤防の風致も変容した。しかし、近代的河川となった重信川と流域住民との深い関係は今後も変わることはない。</p>
愛媛66	松前町誌編集委員会編「松前町誌」(松前町、1979年)、520-521頁	<p>重信川 (中略)そこで急速な対策が必要となり、改修計画を蛇行方式に変更し、蛇行水衝部の護岸を重点的に実施した。次いで毎年大規模な改修工事を継続的に行ってきた。護岸は、計画高水量を毎秒二、九〇〇トンと設定して施工せられていて、予想せられる降水量に対しては、ほぼ安全である。昭和一八年七月大洪水時の最高水量は毎秒二、五〇〇～二、六〇〇トンと推定せられている。なお上流要地二〇数個所に自記雨量計を設置して、降水量のデータを得ると共に、出合橋付近に量水塔を設けて、流量の監視を行い、必要に応じて敏感な対応をすることになっている。堤防の構造は(中略)最高水位に対して、なお一・五メートルの余裕を持たせている。河川敷は、河川の美化と合わせて、レクリエーション施設として解放している地区もある。</p>
愛媛132	愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」(愛媛県、1986年)、614頁	<p>現在の石手川 (中略) なお、流域の護岸工事が完了したのはもちろんであるが、特に岩堰下流の石手川の河川敷は緑地公園として市民に親しまれており、かつての頻発した洪水や破堤の恐怖はすっかり忘れられようとしている。</p>